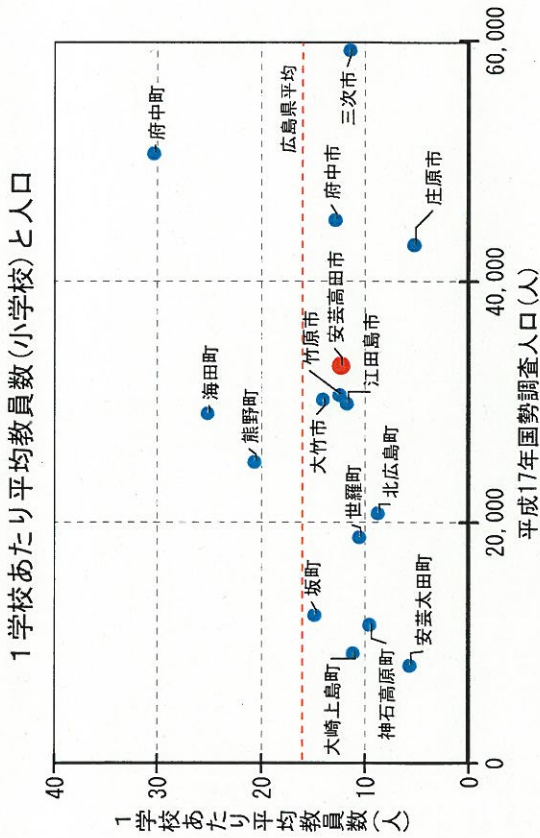




安芸高田市
学校規模適正化委員会
第2回会議資料

平成21年7月8日
安芸高田市教育委員会

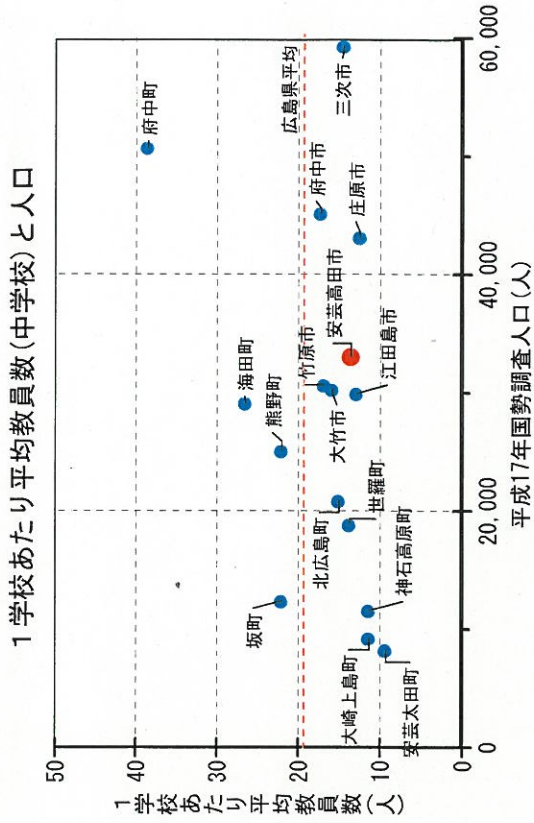
1-1 学校あたり平均教員数の比較(県内市町、広島県、全国の比較)



※平成20年度学校基本調査(以下同様)

(小学校)

安芸高田市の平均教員数は12.2人/学校であり、広島県平均16.4人/学校に比べ低くなっている。竹原市、江田島市などと同じ水準である。

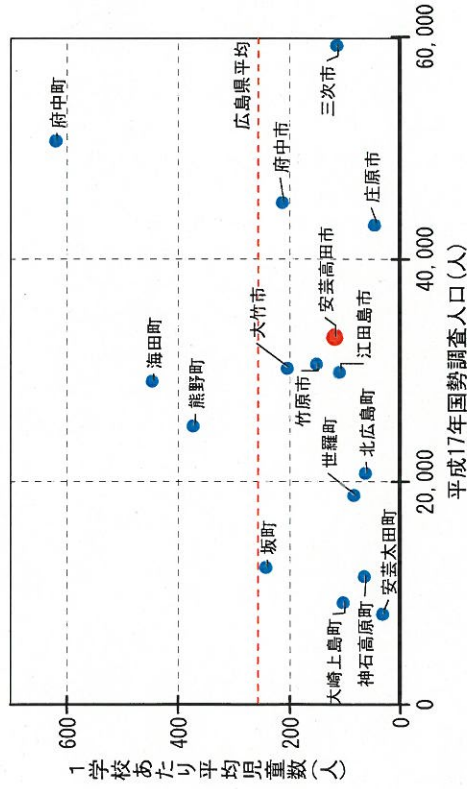


(中学校)

安芸高田市の平均教員数は13.5人/学校であり、広島県平均19.7人/学校に比べ低くなっている。大竹市、江田島市などと概ね同じ水準である。

1-2 学校あたり平均児童数・生徒数(県内市町、広島県、全国の比較)

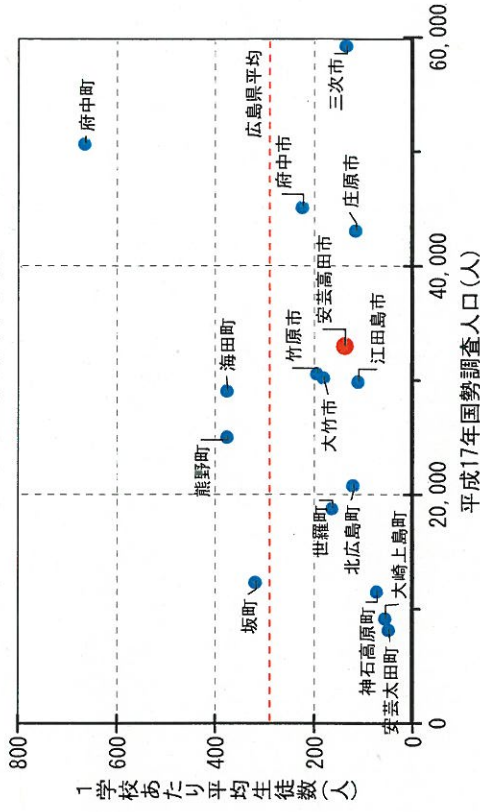
1 学校あたり平均児童数(小学校)と人口



(小学校)

安芸高田市の平均は116人/学校である。広島県平均274人/学校に比べるとかなり低い、人口規模が類似する江田島市、竹原市と概ね同じ水準である。

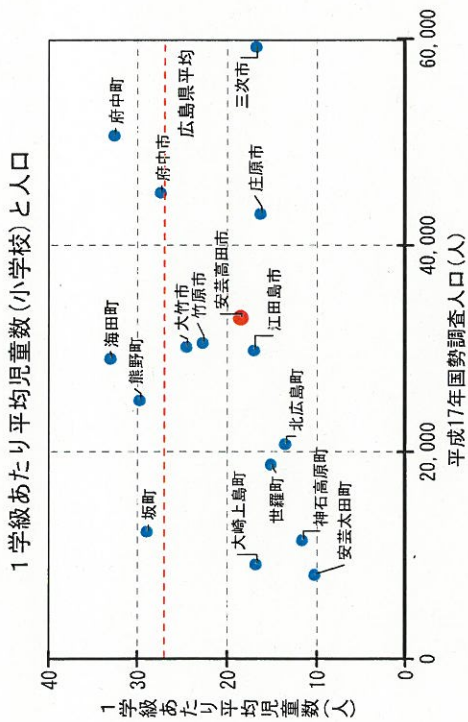
1 学校あたり平均生徒数(中学校)と人口



(中学校)

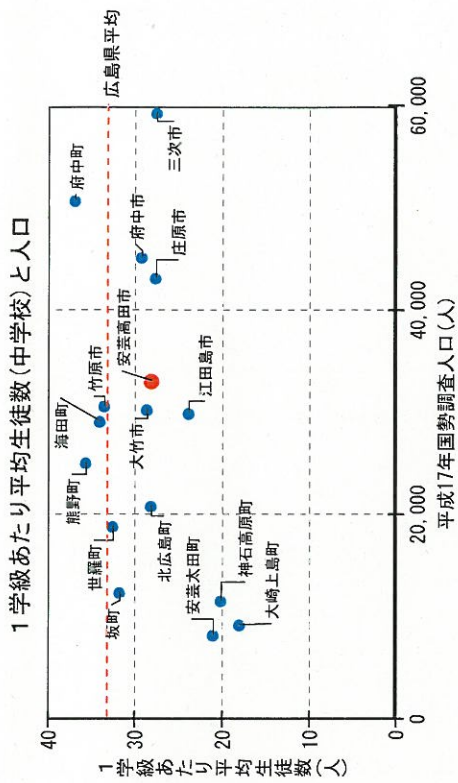
安芸高田市の平均は136人/学校である。広島県平均284人/学校に比べるとかなり低い、人口規模が類似する江田島市と概ね同じ水準である。

1-3 学級あたり平均児童数・生徒数(県内市町、広島県、全国の比較)



(小学校)

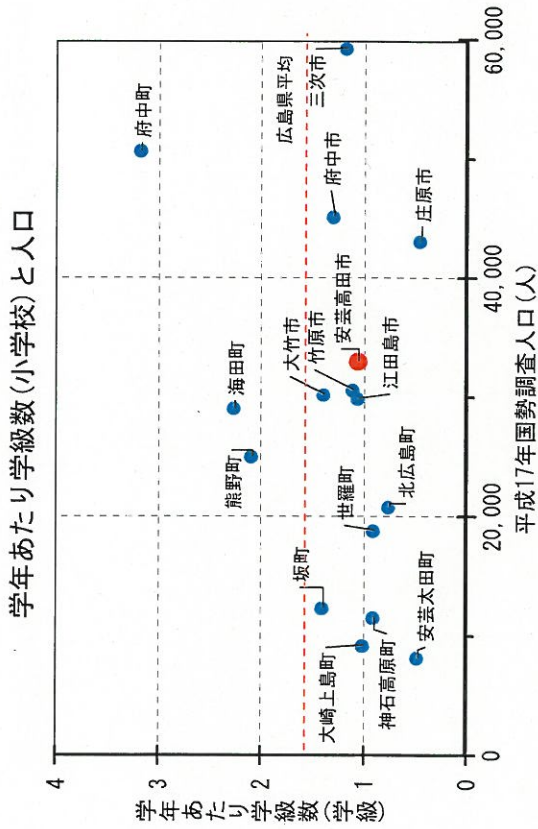
安芸高田市の平均は18.4人/学級であり、広島県平均27.3人/学級に比べ低くなっている。三次市、庄原市、江田島市などと概ね同じ水準である。都市規模が類似する大竹市、竹原市に比べると、やや低くなっている。



(中学校)

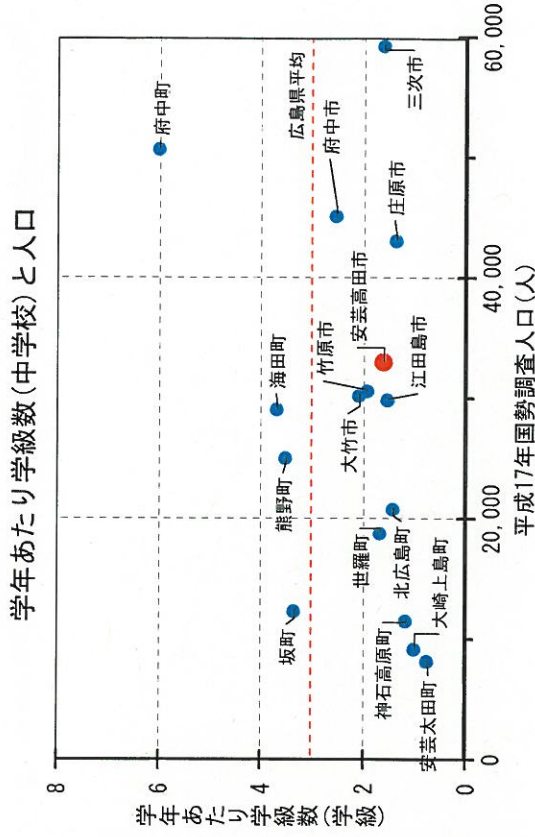
安芸高田市の平均は28.1人/学級であり、広島県平均32.4人/学級に比べ低くなっている。都市規模が類似する大竹市と概ね同じ水準である。

1-4 学年あたり学級数(県内市町、広島県、全国の比較)



(小学校)

安芸高田市は1.05学級/学年であり、広島県平均1.68学級/学年に比べ低くなっている。江田島市、竹原市と概ね同じ水準である。都市規模が類似する大竹市に比べると、やや低くなっている。



(中学校)

安芸高田市は1.61学級/学年であり、広島県平均2.92学級/学年に比べ低くなっている。都市規模が類似する江田島市と概ね同じ水準である。

2-1 小中学校等教職員定数の標準

平成21年度広島県公立小・中学校学級編制基準

- 教頭の配置は3学級以上である。
- 小学校における、6学級での加配は児童数121人以上であり、中学校での加配はない。
- 中学校において定数上専科の教員を配置できない場合、免許外解消措置として、当該教科の免許を有する非常勤講師を配置する。

(小学校)

学級規模	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	11学級	12学級
校長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
教職員数 (校長を除く)	1	2	3	5	6	7	9	10	11	12	13	14
教職員合計	2	3	4	6	7	8	10	11	12	13	14	15
養護教諭	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務職員	-	-	0.75	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	2	3	4.75	7	8	9	11	12	13	14	15	16

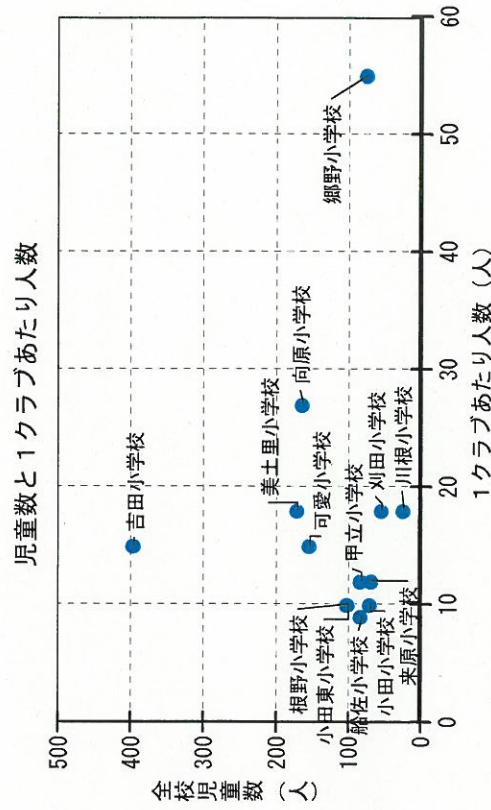
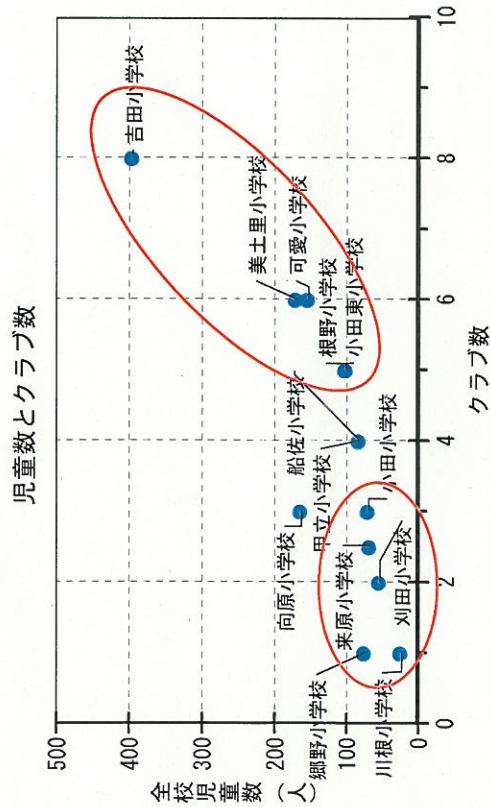
(中学校)

学級規模	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級
校長	1	1	1	1	1	1	1	1	1
教職員数 (校長を除く)	4	5	8	8	9	10	12	14	15
教職員合計	5	6	9	9	10	11	13	15	16
養護教諭	-	-	1	1	1	1	1	1	1
事務職員	-	-	0.75	1	1	1	1	1	1
合計	5	7	9.75	10	11	12	14	16	17

2-2 クラブ活動の各校状況(小学校)

小学校のクラブ活動

- 学習指導要領の特別活動のひとつとして、クラブ活動が位置づけられている。
- 主として第4学年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて、共通の興味・関心を追求する活動を行うこと」とされているが、小規模校では、第3学年からの参加が多くなっている。
- 小規模校では、参加学年を広げなければクラブ活動を実施できない状況にある。参加学年の幅が広がる活動では、児童の体力差・能力差等への配慮が必要となってくる。
- 児童数100名以上の小学校では、概ねクラブ数は5～8である(ただし、向原小除く)。
- 小規模校では、参加学年を広げても、クラブ数は1～3と少なく、指導にあたる教職員が限られていることなどからも、クラブ活動の選択幅が狭くなるかといえる。

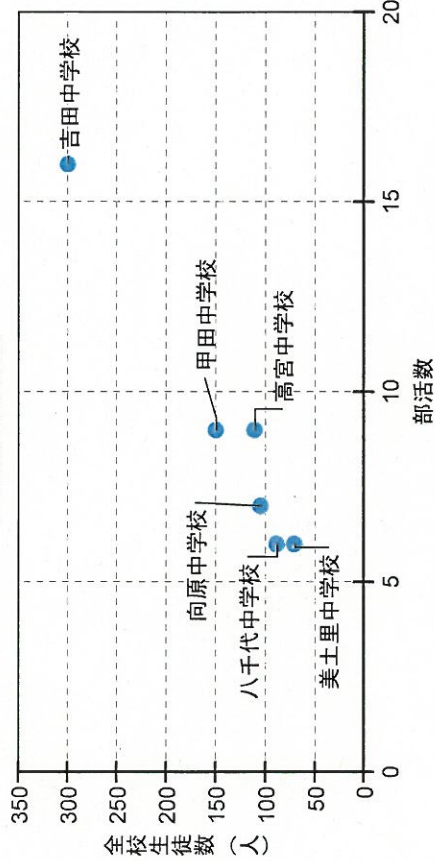


2-3 部活動の各校状況(中学校)

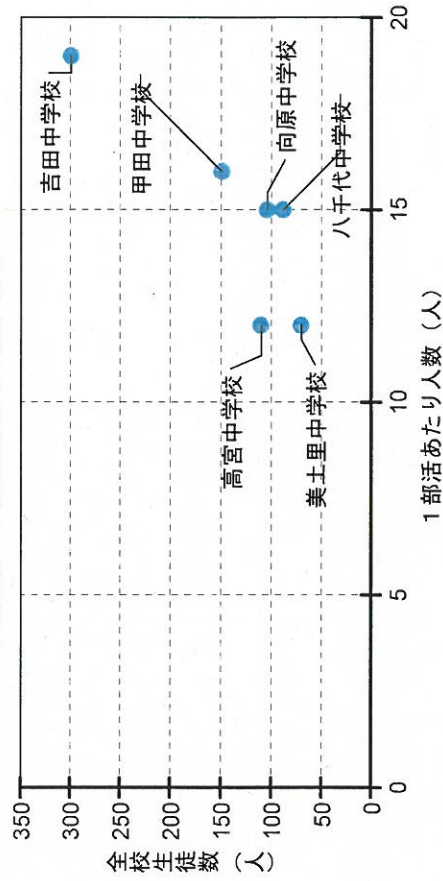
中学校部活動の意義・目的

- ①自分の個性を発見し、伸ばしていく。
- ②教師や異学年生徒との交流、豊かな人間関係を築く。
- ③自主的・実践的な態度の育成、集団活動における社会性や責任感を育成する。
- ④心身の健康の増進・体力の向上を図る。
- ⑤生徒相互が切磋琢磨し、心身の鍛錬を図りながら成長していく。
- ⑥規範意識・マナーや、所属感・連帯感を身につける。

生徒数と部活数



生徒数と1部活あたり人数(人)



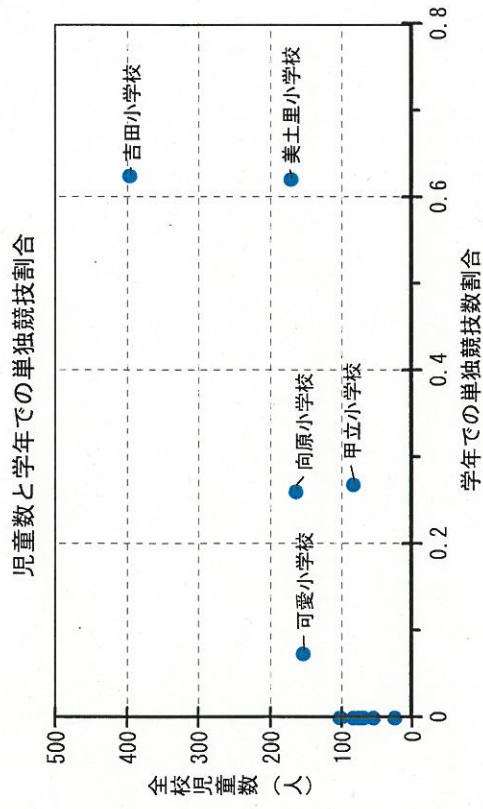
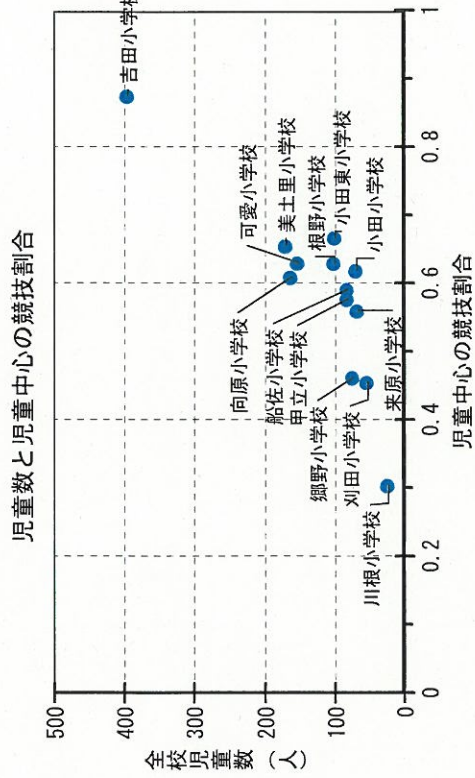
○生徒数の最も多い吉田中学校の部活数は16、1部活あたりの人数も19人と最も多い。

○生徒数の少ない学校は、部活動の選択機会も少ない。また、大会等の参加が難しく、一人の生徒が掛け持ち参加している現状もみられる。

2-4 運動会プログラム数(小学校)

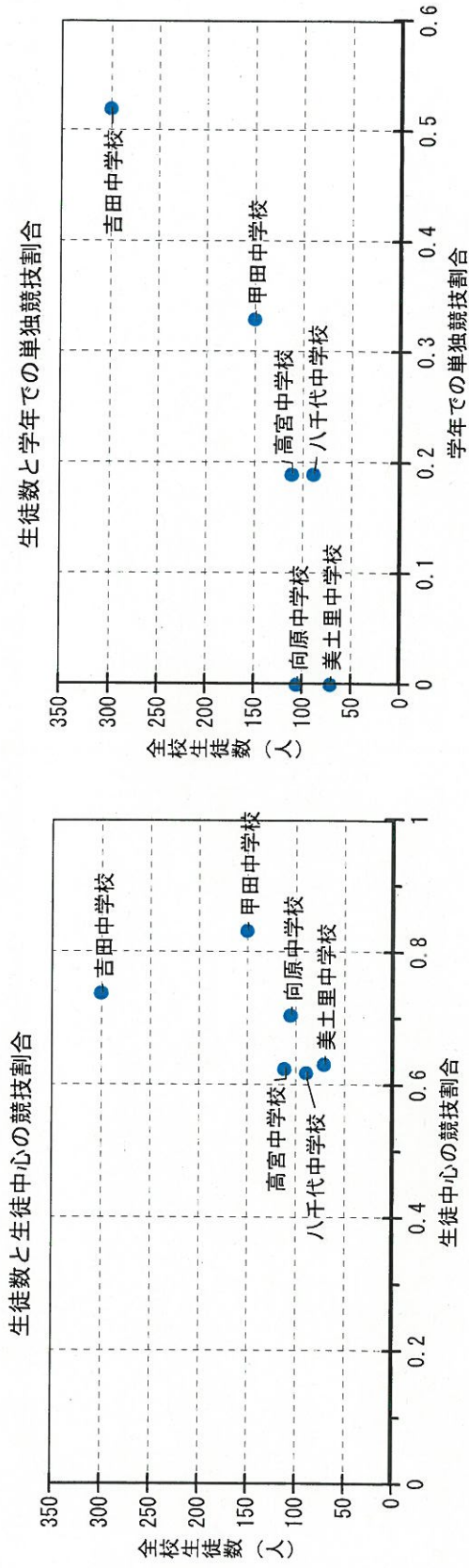
運動会・体育祭の意義・目的

- 体育の成果発表の場、児童・生徒の体力や運動能力を伸ばす。
- 繰り返し練習に励み、大勢で一つのものを完成させる中で社会性を身につけたり、友情を育んだりする。



- 「競技者が児童中心なもの」の全体に対する割合をみると、児童数の多い吉田小学校では、0.875と多くなっているが、その他の小学校では、0.7以下と少なくなっている。
- 小学校では吉田小学校、美土里小学校を除き、1学年だけの競技は少なく、複式学年(1.2年生や1.2.3年生また全年)での競技が多くなっている。
- また、地域全体で運動会を盛り上げる傾向は、小規模校ほど強い。

2-5 運動会プログラム数(中学校)



○中学校は、いずれの中学校も生徒中心の競技割合が0.6以上であり、小学校に比べると生徒中心のプログラムが多くなっている。

○学年での単独競技は、生徒数が最も多い吉田中学校では12競技と多くなっている。